

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	わたなべ なみじ 渡辺浪二 印		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	しおむら きみひろ 潮村公弘 印	フェリス女学院大学	
授業科目名		科目認定番号	受講者数
コミュニケーション専門ゼミ IIB		FERa-110802-2	12 名

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：履修学生は (a) 立案、(b) 先行研究調査、(c) 実験計画・質問項目作成、(d) 実験によるデータ収集、(e) 統計分析、(f) 報告書の作成まで、社会調査・実習で必要とされるほぼすべてのプロセスを経験し、実験・調査を行った。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：社会的迷惑行為への対処方略の検討—鉄道利用の現状と課題—

2. 調査の内容/概要：(1) 社会考慮、社会認識と迷惑行為認知の関連性 (2) 社会考慮、社会認識と迷惑行為への対処方略の関連性 (3) 車内アナウンスを事例に、具体的な対処方略の検討 の3点を中心に、鉄道利用における社会的迷惑行為に対する現状についての調査から、今後の課題を検討した。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：被験者は首都圏の大学に通う女子大学生 151 名、二次調査は同じく 15 名。

4. 主な調査項目：調査項目内容は、社会的考慮尺度 13 項目、規制的社会認識尺度 8 項目、共生的社会認識尺度 8 項目、利己的社会認識尺度 6 項目、鉄道利用における迷惑行為に対する不快感尺度 16 項目、鉄道利用における迷惑行為への鉄道事業者の対処姿勢尺度 16 項目、計 67 項目。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：大学構内で個人的に依頼・実施もしくは授業中に集団で依頼。実施した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査期間は 2011 年の 11 月。調査場所は首都圏の大学キャンパス、教室内。実験実施者は協力者も含め 2 人。

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：依頼した被験者全員からデータ収集ができた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法： χ 二乗検定、t 検定、分散分析など。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：若者ほど厳しい対処方略を望むという先行研究を支持するであろうと予測されたが、全体的に規制よりも共生の対処方略を選択する傾向がみられた。鉄道利用における迷惑行為は社会考慮など社会認識の特徴と関連性が予測されるが、“非利己的な人は共生方略を望む” “利己的な人は規制方略を望む傾向にある” という結果しか確認できなかった。

10. 報告書刊行の予定と概要：学内学会の研究雑誌『多文化・共生コミュニケーション学』に投稿済み。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/」)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。